

# 平成29年産「アルプス米」てんたかく・てんこもり栽培こよみ (JA米)

## 高温に強い品種の導入による作期分散!

アルプス農業協同組合  
アルプス農協管内農業技術者協議会

### てんたかく

青	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ス	育苗期	5/5 田植 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期 7/1	幼穂形成期 7/25	穂ばらみ期	登熟期 8/30

  

作業日程の目安	管理のポイント
<p>5/5 田植え</p> <p>浸種 3/31 → 播種 4/12 → 搬出 4/15</p> <p>5/5 田植え → 除草剤散布 → 軽い中干し → 溝掘り → 中干し → カリ散布 → 7/1 穂肥① → 7/8 穂肥② → 7/14 一斉草刈り → 7/24 防除① → 8/7 防除② → 8/14 防除③ → 8/23-25 落水 → 8/30 刈取り → 土づくり</p>	<p><b>土づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。</li> <li>● 珪酸質資材や堆肥を施用する。</li> <li>● 1.9mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。</li> <li>● 水分14.5~15.0%に仕上げる。</li> </ul> <p><b>適期収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初黄化率85~90%頃に刈り取る。</li> <li>● 高温年は80%から</li> </ul> <p><b>適正な乾燥調製</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フェーン時はあらかじめ入水する。</li> <li>● 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。</li> </ul> <p><b>防除の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生育ステージに合わせて防除を実施する。</li> <li>● 3回目は傾穂期</li> <li>● 2回目は穂揃期</li> </ul> <p><b>出穂後20日間の湛水管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1回目は出穂期直前(必須)</li> <li>● 2回目は出穂期直前(必須)</li> </ul> <p><b>草刈りの徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 草刈りを終える。</li> <li>● 7月上旬までに畦畔や雑草地の</li> </ul> <p><b>適正な穂肥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼穂形成期から飽水管理。</li> <li>● 6/20頃にエスアイ加里うくまたは珪酸加里を施用する。</li> <li>● 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。</li> <li>● 中干しは適期に開始</li> <li>● 強すぎる中干しに注意する。</li> <li>● 田植え1か月後頃を目安に開始する。</li> </ul> <p><b>溝掘りは確実に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5mに1本を目安に溝を掘る。</li> <li>● 活着後は、浅水管理をする。</li> </ul> <p><b>健苗育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 田植え時期に応じた計画的な育苗を行う。</li> <li>● 植付深さは3cm。</li> <li>● 植付本数は株当たり3~4本。</li> <li>● 栽植密度は原則坪当たり70株を確保。</li> <li>● 育苗施設による防除を実施する。</li> <li>● 基肥は基準量を守る。</li> </ul> <p><b>耕起・代かき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。</li> <li>● ゆっくりと耕起し、作土を15cm以上確保する。</li> </ul> <p><b>土づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を</li> <li>● 確実に施用する。</li> </ul>

#### てんたかく 品質向上は「土づくり」から

##### 土づくり資材の施用基準

資材名	標準施用量(kg/10a)
粒状ケイカル	200
元 気	100
シリカロマン	100
シンキョーライトP	100

##### 深耕の実施

現状+3cmで15cm以上作土層の確保

#### 溝掘りと田植後1か月からの中干し

○中干しが不十分な場合、弱勢分げつが多く発生したり、根が少なくなり品質低下しますので田植えの1か月後を目安に、遅れないよう中干しを開始して下さい。

○中干し開始前には、ほ場全体へ入排水を短時間で均一に行うため、溝を設置して下さい。

適正な中干し

- 葉が直立
- 茎が太い
- 根量が多い

中干し未実施

- 下葉が枯れる
- 茎が細い
- 根量が少ない

中干しの有無による稲の姿 兼用管理機での溝掘り

#### カメムシ防除の徹底で被害を防止!!

##### 病害虫防除体系

【育苗基本防除】 育苗施設内は、規定の量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布しましょう。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアドスピン箱粒剤	50g/箱	播種時(穂土前)~移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウツカ類、ツマグロヨコバイ
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、(白葉枯病)

※紋枯病の常発地の場合(特に発生・発生品種の場合) ※対象病害虫の( )内は移植3日前~移植当日のみ登録あり

【本田基本防除】 <粉剤、液剤体系>

防除時期	出穂前	穂揃期	傾穂期
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドキップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) + M.R. ジョーカ-EW 2,000倍 (収穫14日前まで) 使用量: 150ℓ/10a	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで) 使用量: 150ℓ/10a	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで) 使用量: 150ℓ/10a

対象病害虫: ウツカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病等

#### 除草剤散布は遅れずに

##### 雑草防除体系

●軟弱苗には使用を避ける。●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しはしない。

体系	処理	雑草の発生が多い圃場	雑草の発生が少ない圃場
初期剤	メテオ1キログラム剤 (1kg/10a) (移植時~移植後5日目まで)	メテオ1キログラム剤 (1kg/10a) (移植時~移植後5日目まで)	メテオ1キログラム剤 (1kg/10a) (移植時~移植後5日目まで)
中期剤	サイレンジャー1キログラム剤 (1kg/10a) (移植後5日~10日目まで)	サイレンジャー1キログラム剤 (1kg/10a) (移植後5日~10日目まで)	サイレンジャー1キログラム剤 (1kg/10a) (移植後5日~10日目まで)
一発処理剤	アピロロウMX液剤 (500g/10a) (移植後10日~15日目まで)	アピロロウMX液剤 (500g/10a) (移植後10日~15日目まで)	アピロロウMX液剤 (500g/10a) (移植後10日~15日目まで)

【雑草が残った場合】

- 【アピロロウ液剤が残った場合】 アピロロウ液剤(500g/10a) (移植後15日~20日目まで) (但し、収穫60日前まで)
- 【サイレンジャー液剤が残った場合】 サイレンジャー液剤(1kg/10a) (移植後20日~30日目まで) (但し、収穫60日前まで)
- 【メテオ液剤が残った場合】 メテオ液剤(1kg/10a) (移植後25日~30日目まで) (但し、収穫60日前まで)

#### 土壌に応じた適正な施肥量を

土壌区分	基肥一発体系	分施肥体系	穂肥
砂壤土	40	BB基肥206 または 燐加安403	45 または 40
壤土・黒ボク	35	BB基肥206 または 燐加安403	35
粘質土	30	BB基肥206 または 燐加安403	30

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

##### 初期除草剤の適正使用

①代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。

②軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。

③葉害軽減のため、初期除草剤マーシェット1キログラム剤は移植後3日以降の使用とする。

●田植同時除草剤は、移植と同時に施薬するため薬害を受けやすいことから、上記①を守り、田植後の入水をゆるやかに行う。

### てんこもり

青	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ス	育苗期	5/10 田植 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 7/14	穂ばらみ期 8/7	登熟期 9/19

  

作業日程の目安	管理のポイント
<p>5/10 田植え</p> <p>浸種 4/5 → 播種 4/17 → 搬出 4/20</p> <p>5/10 田植え → 除草剤散布 → 軽い中干し → 溝掘り → 中干し → カリ散布 → 7/14 一斉草刈り → 7/24 穂肥① → 8/7 穂肥② → 8/14 防除① → 9/12-14 落水 → 9/19 刈取り → 土づくり</p>	<p><b>土づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。</li> <li>● 珪酸質資材や堆肥を施用する。</li> <li>● 1.9mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。</li> <li>● 水分14.5~15.0%に仕上げる。</li> </ul> <p><b>適期収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初黄化率85~90%頃に刈り取る。</li> <li>● 高温年は80%から</li> </ul> <p><b>適正な乾燥調製</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フェーン時はあらかじめ入水する。</li> <li>● 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。</li> </ul> <p><b>防除の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生育ステージに合わせて防除を実施する。</li> <li>● 2回目は傾穂期</li> <li>● 1回目は穂揃期</li> </ul> <p><b>出穂後20日間の湛水管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1回目は出穂期直前(必須)</li> <li>● 2回目は出穂期直前(必須)</li> </ul> <p><b>草刈りの徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 草刈りを終える。</li> <li>● 7月上旬までに畦畔や雑草地の</li> </ul> <p><b>適正な穂肥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼穂形成期から飽水管理。</li> <li>● 6/20頃にエスアイ加里うくまたは珪酸加里を施用する。</li> <li>● 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。</li> <li>● 中干しは適期に開始</li> <li>● 強すぎる中干しに注意する。</li> <li>● 田植え1か月後頃を目安に開始する。</li> </ul> <p><b>溝掘りは確実に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5mに1本を目安に溝を掘る。</li> <li>● 活着後は、浅水管理をする。</li> </ul> <p><b>健苗育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 田植え時期に応じた計画的な育苗を行う。</li> <li>● 植付深さは3cm。</li> <li>● 植付本数は株当たり3~4本。</li> <li>● 栽植密度は原則坪当たり60~70株を確保。</li> <li>● 育苗施設による防除を実施する。</li> <li>● 基肥は基準量を守る。</li> </ul> <p><b>耕起・代かき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。</li> <li>● ゆっくりと耕起し、作土を15cm以上確保する。</li> </ul> <p><b>土づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を</li> <li>● 確実に施用する。</li> </ul>

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!